

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数
---------	---	--------

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃ でんとうげいのうおふいす 株式会社 伝統芸能オフィス		団体ウェブサイトURL
代表者職・氏名	代表取締役 中坪眞		
制作団体所在地	〒 221-0822	最寄り駅(バス停)	東白楽
	神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-15-2 パーソナルハイツ東白楽101		
電話番号	045-324-3421		
ふりがな 公演団体名	いっぽんしゃだんほうじん みやけきょうげんかい 一般社団法人 三宅狂言会		団体ウェブサイトURL
代表者職・氏名	代表理事 三宅右近(和泉流狂言方)		
公演団体所在地	〒 176-0021	最寄り駅(バス停)	富士見台駅
	東京都練馬区貫井3-22-3		
制作団体 設立年月	昭和51年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 中坪眞 取締役 中坪一世		40名(落語家、狂言師、音楽家など) 制作スタッフ:13名 舞台スタッフ:10名
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	中坪眞
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	中坪一世
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:nakashin@dentougeinou.com">nakashin@dentougeinou.com</a>		

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>●(株)伝統芸能オフィス(通称・日本伝統芸能を守る会)・沿革  ○昭和43年糸あやつり人形結城糸女子一座(ゆうきしめこ)沖縄公演(沖縄復帰以前)に  ○昭和47年全国の小中学高校の児童生徒対象に日本の伝統芸能(落語、能狂言、邦楽など)芸術鑑賞教室を始める。落語は学校寄席、わんぱく寄席で定着 狂言は和泉流、大蔵流で狂言鑑賞教室を全国展開。  昭和51年4月 株式会社ナカシン設立。  昭和64年 横浜博覧会、名古屋デザイン博、岐阜未来博の制作に携わる  平成 8年 江戸東京博物館こけら落とし公演  芸能屋台村企画江戸芸能時空旅行「Back To The Edo ～バック・トゥ・ザ・江戸～」  平成 9年 創立25周年を迎える  平成11年 国際交流基金の派遣で中南米各国において「芸能屋台村」を公演  平成12年 文化芸術祭「芸能屋台村」で参加  平成14年1月 株式会社伝統芸能オフィスに社名変更 通称「日本伝統芸能を守る会」  平成14年 国際交流基金派遣で三味線と和太鼓の公演(ごちえもん)  平成23年 ILO(国際労働機関)京都会議へ狂言で参加  令和 4年 創立50周年を迎える</p> <p>&lt;受賞歴&gt;  平成16年 アフリカ民族音楽「アフリカンドリーム」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦  平成19年 「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦  平成25年5月「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦  平成25年5月 日本伝統芸能を守る会 長年にわたって 日本の伝統芸能を子どもたちに普及し、  児童の健全育成に貢献してきた活動にたいして  厚生労働省児童福祉文化財特別部門受賞  令和4年12月 代表の中坪眞が永年にわたり、子どもたちに伝統芸能を普及させてきた活動  に対して「文化庁長官表彰」受賞</p>	
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>昭和47年より現在まで10000校以上  年間150校の学校での公演実績</p> <p>文化庁 平成17・18年「本物の舞台芸術体験事業」  文化庁 平成20年21年22年「本物の舞台芸術体験事業」  文化庁 平成23年「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」  文化庁 平成25年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」  文化庁 平成26年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」  文化庁 平成27年「文化芸術による子供の育成事業」  文化庁 平成28年「文化芸術による子供の育成事業」  文化庁 平成29年「文化芸術による子供の育成事業」  文化庁 平成30年「文化芸術による子供の育成事業」  文化庁 令和元年「文化芸術による子供育成総合事業」  文化庁 令和2年「文化芸術による子供育成総合事業」  文化庁 令和3年「文化芸術による子供育成総合事業」  文化庁 令和4年「文化芸術による子供育成推進事業」  文化庁 令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業  舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演」</p> <p>平成23年北区文化振興財団「親子で楽しむ狂言」</p>	
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>	<p>北海道余市養護学校しりべし学園分校  香川県立善通寺養護学校  横須賀市立ろう学校</p>	
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>有</p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=SrlThg-key4">https://www.youtube.com/watch?v=SrlThg-key4</a></p> <p>ID: .</p> <p>PW:</p>

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	児童生徒が創り上げる 狂言「茸(くさびら)」		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>第1部</p> <p>1、狂言解説 ～狂言ってなんだろう?～</p> <p>2、狂言『盆山 ぼんさん』</p> <p>3、狂言体験 ～僕も私も1日狂言師～</p> <p>++++++ 休憩 (15分)++++++</p> <p>第2部</p> <p>4、狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演</p> <p>出演: 三宅狂言会 キノコ役…児童生徒12名 鬼茸役…学校の先生</p> <p>※ 監修 振り付け……三宅右近(和泉流狂言方)</p> <p>※ 企画原案 演出 脚本 構成……なかつぼ まこと</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>1、狂言解説～狂言ってなんだろう?～(詳細は別添へ)</p> <p>はじめて狂言を見る児童生徒にもわかるように、狂言はいつから演じられているの? 狂言の特徴は?など、狂言についてわかりやすく解説します。</p> <p>2、狂言『盆山 ぼんさん』</p> <p>狂言の特色である、所作、セリフ、擬音など総てが盛り込まれた作品で、初めて狂言を鑑賞する人にも楽しめる作品です。</p> <p>児童生徒は想像力を補いながら舞台を楽しむことができるシンプルながらわかりやすい演目です。</p> <p>※「盆山」あらすじは別添へ</p> <p>3、狂言体験～僕も私も1日狂言師～</p> <p>より狂言に親しんでもらうために、狂言のセリフや擬音、動物の鳴き声などを全校生徒で体験していただきます。</p> <p>また、全員で謡『兎(うさぎ)』を大きな声で謡います。</p> <p>4、狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演</p> <p>狂言『茸』では、児童生徒が主役となって、狂言師と共演を果たします。鬼茸役で先生も参加。主演する児童生徒だけでなく、観客の児童生徒全員で世界にひとつの舞台を創り上げます。</p> <p>※「茸」あらすじは別添へ</p>		

<p><b>演目選択理由</b></p>	<p>狂言はユネスコ無形文化遺産の第一号として登録されており、伝承すべき日本の文化の一つです。「狂言」などの伝統芸能は難しいと思われていますが、順応性のある児童・生徒は、わからない言葉があっても役者の動きや表情を読み取って理解し、狂言独特の空気を自然と感じ取って楽しむ能力があります。今回は特に児童・生徒達にわかりやすい演目『盆山』と、児童・生徒と狂言師が共演して創り上げる『茸』の2つの演目を選びました。</p> <p>狂言『盆山』では、日本語の特徴である擬音(オノマトペ)がふんだんに使われているため、児童・生徒にもわかりやすい内容になっています。室町時代の擬音と今の擬音とは少し違っていることにも注目してみると、時代によって日本語が変化していることに気づけます。</p> <p>狂言『茸』はたくさん出演者が登場する「大勢狂言」の中のひとつで、和泉流では「茸(くさびら)」と表記しますが、大蔵流では、「菌(くさびら)」と表記するなど、とてもポピュラーな演目です。今回は、この演目で児童生徒さんたちと、本物の狂言師が共演することで、多感な時期の児童・生徒にとってめったに得られることのない貴重な体験になり、狂言への興味や印象を一層深く残すことを期待します。</p> <p>また、児童・生徒同士、先生、出演者と協力して一緒に舞台を作り上げることは、共演者として一体感が生まれ、お互いのコミュニケーション能力を高めます。観客の児童生徒は、自分の身近な人間が舞台に出ていることで、より親近感がわき、狂言をもっと身近に感じているようです。実際に児童・生徒が登場するやいなや、会場からあたたかい笑いがあふれ出し、出演の児童生徒が作った「面」を見て、その色とりどりの模様や形のおもしろさを楽しんでいます。</p> <p>本公演の中で児童・生徒は自分でつくった「面」をつけて舞台上で登場します。自分で想像したオリジナルのキノコの面を作ることによって想像力と表現力を身につけることができます。</p> <p>最初は小さな声だった児童・生徒がお稽古を終えるころには、大きな声で自然とあいさつができるようになり、そのお稽古の様子を見ていた先生も狂言師の真剣なお稽古の様子を見て自然と背筋を伸ばして正座をしながら児童生徒の練習を見守っています。</p>
<p><b>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</b></p>	<p>○ 狂言「茸」出演者—キノコ役…12名(できれば各学年から選出) 鬼茸役…先生1名</p> <p>内容—————事前ワークショップで狂言「茸」のお稽古をします。</p> <p>※元気に大きな声が出せる、児童生徒、先生を立候補にて選出願います。 また本来は基礎を忘れずに稽古を何度も繰り返します。 なるべく全員で集まれる時間を作って稽古を重ねて本番に臨んでください。</p> <p>※出来るだけ年代層が広がっているほうが大小様々な茸が登場して面白く表現できますが、授業の関係などで難しい場合は臨機応変におこたえします</p> <p>※ 狂言師は礼儀の仕方からはじまり、真剣に児童・生徒たちと向き合って指導します。この共演で、一つのものを完成させるという目標のもと、指導者と児童・生徒が一丸となって稽古します。</p> <p>○ 全員参加—狂言の基本所作を学ぶ(礼儀作法、あいさつ) 狂言のセリフを実際に体験 狂言の謡「兎(うさぎ)」を謡う</p>
<p><b>出演者</b></p>	<p>三宅右矩／三宅近成／高澤祐介／前田晃一／吉川秀樹／河路雅義／大塚出／金田弘明など三宅狂言会(和泉流)から5名</p>
<p><b>本公演</b></p>	



従事予定者数  
(1公演あたり)  
※ドライバー等  
訪問する業者人数含  
む

出演者: 5 名

スタッフ: 4 名

合 計: 9 名

運搬

積載量: 1 t

車 長: 5.31 m

台 数: 2 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:30	9:00-11:00	13:30-15:00	15	15:00-17:00	17時00分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	14日	9日	21日	22日	
	11月	12月	1月	計	137日	
	20日	15日	16日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	12名～
		鑑賞人数目安	700名



(1) 体育館のフロアに舞台を設置した状態。児童・生徒さんたちは間近で舞台をお楽しみいただけます。体育館が狭い場合などは相談しながら臨機応変に対応させていただきます。



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

- (2) 舞台の裏側を「葺」役の児童・生徒が着替える楽屋として使用します。公演前に、共演者と挨拶を交わして本番に臨みます。
- (3) 「葺」役の児童・生徒が舞台へ登場するシーン。

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	12名～(ご希望の場合は全校生徒も可能です。) ※茸役12名+先生1名 謡『兎』を謡う(全校生徒)
<p style="text-align: center;"><b>ワークショップ 実施形態及び内容</b></p>	<p><b>ワークショップは次のパターンからご選択いただけます ※詳細は別添へ</b></p> <p>その1 キノコ役12名+鬼茸役先生1名参加……………狂言『茸』のお稽古(90分) 詳細は別添へ</p> <p>その2 クラスで参加 キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………狂言『茸』のお稽古(90分) その他の児童 ………………謡『兎(うさぎ)』のお稽古(45分)</p> <p>その3 全校児童・生徒参加 全校児童・生徒参加……………午前中 みんなで楽しむ狂言体験(午前中45分) キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………午後 狂言『茸』のお稽古(90分)</p> <p>みんなで楽しむ狂言教室</p> <p>1, はじまりのあいさつ まずは狂言師と児童生徒がお互いあいさつをして狂言教室の時間がはじまります</p> <p>2, みんなで狂言体験をしよう 狂言の歴史、成り立ちなどを簡単に解説したあと、 狂言のかまえ(姿勢)、すり足(歩き方)、発声(大声で大笑い)など 狂言の基本所作を全員で一緒にを行います</p> <p>3, 狂言の謡「兎(うさぎ)」を全員で謡い、舞います。 数名(3人～20人)の立候補の児童生徒がいれば、 本公演では狂言の他に舞の発表もさせていただきます。</p>		
	<p>&lt;事前ワークショップのねらい&gt;</p> <p>「自分たちで一つの作品を作り上げる」</p> <p>この舞台の主演は、児童生徒と先生自身です。鬼茸を先生が演じ、児童生徒が主演となって、実際の舞台で演じる場所に大きな特色があります。 狂言では、お客様に楽しんでもらうために、きびしい稽古を重ねて舞台に出ます。 体験する児童・生徒には、一つのことに取り組むことの大切さ、うまくできたときの達成感などを感じていただき、今後何かをやり遂げる時には、この経験を思い出して一つのことをやり遂げる力をつけてもらいたいと思います。</p> <p>「演技力、表現力を磨く」</p> <p>児童生徒が演じるキノコはさまざま。ちょこちょこ可愛らしい動きの子のキノコや、しっかりした動きのキノコ。鬼茸役の先生の怖くも威厳のある動き。それぞれ個性的なキノコたちが舞台の上で動き回り、創造性や演じる力を高めることができます。</p> <p>「共演で得られるもの」</p> <p>各学年から参加児童・生徒がそれぞれ集まり一つのことをやり遂げる。 すると、参加児童同士が自主的に教え合い、高学年の児童が低学年の児童をフォローするなど</p>		

## ワークショップの ねらい

コミュニケーションが生まれます。

また自分自身の個性を磨くだけでなく、他の人の動きを観察して、自分との違いを研究するなど自分を客観視することもできます。

お互い協力して舞台を作り上げることで、チームとしての団結力が深まるばかりではなく、他の人よりも、もっと大きな声を出そうなどの、いい意味での対抗意識が生まれ、物事に取り組む意欲が高まる効果があります。

指導者は児童生徒と真剣に取り組めます。児童生徒はその期待に答えようと一生懸命取り組んで、お互いの信頼関係が築き上げられます。このことは、学習指導要領の特別活動の項目にあてはまります。

「想像力・製作力が高まる」

自分の想像力を駆使して、キノコの「面」をつくります。

児童生徒の自由な発想でデザインしたものは面白く、舞台をより一層豊かにさせることができ、

児童・生徒それぞれの個性を表現する力が高まります。

先生、友達、家族の方々と話し合いながらオリジナルの「面」づくりを楽しみながら作成しましょう。

※ 説明書はあくまでも作り方の一例としてお渡しします。

作る素材も自由に考えさせることで面白いものが出来上がります。

(児童生徒の自由な発想を大事に)

<本公演>

「狂言の楽しさを全員で体験する」

児童生徒に、実際の狂言の舞台を体験してもらうことで、表現力、想像力を豊かにし、伝統芸能をより身近に感じることができます。

稽古の前にはきちんと狂言師とお辞儀をしてお稽古に臨みます。

(5) 「茸」の練習について

体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので体操着など動きやすい服装（スカート不可）で行います。

鬼茸（おにたけ）役の先生も一緒に練習します。※その他の詳細は別添へ

## その他ワークショップに 関する特記事項等



## 本事業への申請理由

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

**本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫**

## ①本事業に対する取り組み姿勢

「生の舞台に触れることの大切さ」

「小学校1年生の児童から楽しめる狂言」をコンセプトに、視点を子ども目線にしたプログラムづくりをしております。

柔軟で好奇心旺盛な児童、生徒のところに本物に触れることで、狂言に限らず他の伝統芸能の生の舞台の迫力とおもしろさを知っていただくきっかけになって、将来のお客様に劇場に足を運んでもらいたい。  
伝統芸能は、お客様に育てられていく芸能です。

「教科書を読むだけではわからない生の声の迫力」

狂言は約650年前に室町時代からつづく伝統芸能であるとともに、当時のことばがそのまま残っている生きた教科書です。

現在小学校、中学校の教科書に狂言が掲載されておりますが、実際のセリフの言い方などは、本を読むだけではわかりません。

口伝(口づたえ)で伝わってきた狂言のセリフを生で聞くことで、現代の日本語との違い、変化、表現の違い、さらには歴史を知ることができます。

「本物の雰囲気味わっていただく」

私たちは、小中学校の体育館で、できるだけ能楽堂の本物の雰囲気を味わっていただくための会場づくりをしております。

本物の衣装を身につけることで着物への興味につなげてもらい、本物の舞台で、狂言師とともにお稽古をし、共演するという貴重な体験を味わっていただきたい。

「狂言の体験から見えたもの」

今回の狂言では、児童・生徒、そして先生が主役となり一つの舞台を作り出します。演技者としての体験を通して、狂言の世界をより深く知っていただくことがねらいです。実際の舞台に出演した児童・生徒のみなさんの感想に

「狂言は喜劇で、楽しい物語ですが、裏でたくさん練習を重ねて上達してやっとならなくて芸ができるのだなと思いました」

「練習を積み重ねていくうちに、みんなが笑ってくれたらうれしいなと考えたら楽しくなってきちんと集中して練習に取り組もうと思いました」

「私たち七人でやっとならなくて狂言役者さん一人の声の大きさが驚きました」

など、演じる側の児童・生徒から、狂言の世界を知ってもらうことができました。また、「自分はこんなに声が出せるんだ、次からもっと大きな声を出そう」など狂言の練習で学んだ経験をほかのことへ生かすという前向きな考えが生まれています。

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

## ステップ1 公演資料の送付

事前ワークショップに先立ち、資料をお送りします。

- <資料> ○ワークショップ時に必要な道具や注意事項  
○ワークショップの進行表  
○五 節の作り手の説明書

- 面、立の作りの説明書
- ワークショップの説明DVD
- 参加児童の足のサイズと身長の確認(衣裳を用意するため)

#### ステップ2 公演の打ち合わせ

事前ワークショップの時に担当の先生と打ち合わせ

<打ち合わせ内容>

- 電源の位置の確認
- 観客席の位置の確認
- 舞台の設置位置確認
- 楽屋設置の説明
- トイレの場所の確認
- 夏、冬の冷暖房について
- 搬入口について、
- 登下校の時間帯の確認(登下校時の事故予防のため)
- 本公演の進行など
- 練習用のDVDをご用意します

#### ステップ3 本番当日

前日に最終確認の電話連絡をいれます。

安全を守るために学校の登下校の時をさけて搬入、搬出します。

進行の最終打ち合わせをいたします。

公演中に地震や火災などの災害が起こった場合は、速やかに避難の誘導を行います。



リンク

No.2

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

### 狂言「茸 (くさびら)」上演への想い



この狂言「茸」は  
子どもたちがつくる  
世界にひとつしかない舞台です  
主演する子どもたちだけでなく  
観客の子どもたちもみな参加して  
一つの舞台をつくりあげます  
その舞台づくりに私たちは  
真剣に取り組みます



衣裳を身につける時の  
ワクワク、ドキドキする瞬間や  
能舞台に出る緊張感——  
このことは子どもたちの  
記憶にのこる大切な出来事です  
子どもたち、出演者、先生たちが  
協力し、世界にひとつとない  
すばらしい舞台をつくりあげます

演目選択理由





舞台のほうから  
一の松、二の松、三の松と  
順に小さくして遠近感をだしている

鏡板  
老松が描かれた装置  
歌舞伎では松羽目と  
呼ばれている

切戸  
ちいさな扉になっていて  
きのご役の児童・生徒は  
ここからも登場してきます

**本物の装束**

出演者は脚絆をつけて  
足袋をはき本物の装束を  
身にまとうて登場します



**揚幕(あげまく)**

演者が出入りするときに竹竿で幕を上げ下げする  
きのご役の児童・生徒はここから登場してきます

体育館に本格的な能舞台をつくり、児童生徒の視覚を刺激します。  
能舞台の正面の松には神が宿ると言われ、狂言を演じる舞台は神聖な場所です。  
出演の子どもたちは普段は着ることのない装束を身にまとうことで、演技者として  
舞台に出る喜びを深く感じるようになります。

**演目概要**

**狂言ミニ  
博物館の展示**

舞台へ向かう入口に狂言博物館を設置。狂言の装束や「茸(くさびら)」  
で使う鬼茸の面を展示し、これから始まる狂言の雰囲気を一層高めめます



**狂言の装束**

装束には季節の柄やおめでたい柄など  
大胆で楽しい柄がデザインされている。



**おもしろい面の数々**

先生が演じる鬼茸の面の他にも狂言には天狗や猿など、様々な面があります。  
今回の「茸」にはどのようなおもしろい面がでてくるかお楽しみに。





## 第1部

## 1、狂言の解説 ～狂言ってなんだろう?～

初めて狂言、伝統芸能の世界に触れる児童生徒のために、簡単な歴史や、能舞台のしくみ、役割、狂言の衣裳、装束(しょうぞく)、狂言独特の演出方法などを実演をまじえながらわかりやすく解説します



狂言について  
わかりやすくおはなしします

狂言の歴史・特徴・見どころ

狂言の衣裳のあれこれ

狂言に登場するゆかいなキャラクター  
など

## 演目概要

## 2、狂言「盆山 ぼんさん」 実演を交えた狂言の特徴について

狂言「盆山」は狂言で表現される基本的な所作(足、手、腰の動き)、セリフ、擬音などの特徴がふんだんに盛り込まれております。

**狂言の特徴**  
 名乗り……「このあたりの者でござる」など名乗り、自分が何者かを観客に知らせます  
 道行き……セリフを言いながら能舞台の柱に沿って三角に歩き目的地まで向かう様子  
 擬音……垣根をのこぎりで切る音、垣根を破る音や動物の鳴き真似をする様子など

## 【盆山あらすじ】

室町時代は「盆山(盆の上に岩を置いた置物)」が大流行。  
 この盆山を一つも持ってない男が、ある夜、友達の屋敷に忍び込んで盗もうとします。  
 ところが大きな物音を立ててしまい、あっという間に見つかってしまいます。  
 盗人が顔見知りだと気づいた友達は大笑い。男を散々にからかってやろうと、  
 色々な動物の鳴き真似をさせるのですが…

盆山を見た後は、狂言「茸」に出演する児童生徒をみんなで送ります  
 狂言「茸」に狂言師として出演する代表の児童生徒たちが、装束(狂言の衣裳)に着替えるために  
 楽屋へ移動します。みんなで声援をおくりましょう!

## 演目概要

3、狂言の体験～僕も私も一日狂言師～ **全員参加ワークショップ**

狂言のお稽古は、  
「礼に始まり礼に終わる」  
まずはお辞儀から。  
きちんと正座をして、  
大きな声で「よろしくお願ひ致します」と挨拶。  
狂言師が基本の動作をレクチャーします。

◀よろしくおねがいますとみんなであいさつ  
心が引き締まります。

狂言の基本所作(動き)を学ぶ

狂言にはさまざまな所作があります。泣いたり、大笑いを、  
観客にわかりやすくするために、大きな動作を試みさせます。

狂言に出てくる擬音の世界

狂言『盆山』のもたくさんの擬音が出てきました。  
ほかにも狂言にはいろいろな擬音があります。  
狂言師がクイズ形式で擬音についての問題を出題します。

みんなで謡い(うたい)を謡おう

発声の基礎となる狂言の謡「兎」を一曲覚えて、  
全員で謡ってみましょう!



正座をして姿勢をただすと  
自然と声が出るようになり  
気持ちもひきまします。

**こんなこともやりました** 小規模校の場合など

事前ワークショップで、「草」のお稽古の他に、  
謡いと小舞を練習して本公演で  
披露したこともありました。



そのころ舞台裏では……

出演者が狂言の装束を着付けながら、言葉をかけて緊張をほぐしていきます  
 装束に着替えた児童生徒は大興奮!何度も鏡で自分の姿を見たり、友達同士で  
 ほめ合ったりと気分は最高潮に!



### 演目概要



共演者として出演する狂言師と  
 きちんと正座をして向き合いあいさつを  
 かわします

※装束は体操着などの上から羽織ります



出演者が衣裳をつける場面も見ることは  
 貴重な体験です



児童生徒同士お互い衣裳のチェックをします

児童生徒たちは、狂言の本物の装束(衣裳)を身につけます。  
 はじめて着る装束に子どもたちの気持ちも高まります。自分たちが想像して作成した<sup>おぼて</sup>面と  
 笠をつけて舞台にたつこの瞬間は、この舞台でしか味わえない  
 一生の思い出に残ることでしょう。



第2部  
4、狂言「茸くさびら」～大勢狂言～

先生も  
鬼役に変身!



鬼茸(おにたけ)  
先生も鬼茸役として出演

おぼて  
面

自分たちで作成した  
「面」をつけて登場!  
キノコの独特の不思議な  
世界を演出します

児童・生徒12名が  
主役のキノコ役として出演



装束

本格的な狂言の装束を身につけ  
舞台を華やかに彩ります

登場  
人物



主人

家にキノコがたくさん  
生えてきたので、  
山伏に祈禱を  
おねがいする



山伏

主人からの願いで  
キノコを退治しようと  
祈禱するが……

【あらすじ】

とある屋敷に、夜な夜な生えてくる巨大キノコ。  
気味悪がったお屋敷の主人は霊験あらたかな山伏にお祓い  
の祈禱を依頼します。さっそく屋敷に赴いた山伏が怪しげな祈  
禱を始めると、無くなるどころか、どんどんキノコは増え続けます。  
走りまわるキノコ、イタズラを仕掛けるキノコ。  
屋敷中がキノコだらけになってしまい、必死になって祈る山伏を  
尻目に、とうとうおどろおどろしい鬼茸まで登場し…。



演目概要



「ポーロンポロン」と山伏が祈禱を唱えれば唱えるほど



どんどんキノコがふえてゆきます



祈禱がやむとびたっと動きをとめるキノコたち



クライマックスでは鬼茸が出てきて……

## カーテンコール

本日出演した児童生徒が最後に名前を呼ばれて出てきます。  
ここではじめて面と笠を脱ぎ顔を出してあいさつします。  
すると、あの茸はあの子だったのかと驚きの声があがります



ひとりひとり狂言師から名前を呼ばれて、自分の作った面と笠を見せて出てきます

鬼役の先生は誰なのか当日まで内緒



観客のみなさんにお礼の挨拶をして幕を閉じます。みんな演技をやり終えた達成感に笑みがこぼれます

## 演目概要



最後にみんなで記念撮影。忘れられない思い出がのこります。



終演後、最後までがんばった児童生徒たちと共演者とお互いにあいさつをします。

## 公演の効果

狂言師は真剣に児童生徒と向き合い、指導の熱意が自然と児童生徒に伝わります。最初小さい声だった児童生徒も、お稽古を終える頃にはきちんと正座をして大きな声で挨拶できるようになっています。その様子を見ていた先生までも背筋を伸ばして正座をしながら児童生徒を見守っています。

自分たちが主役になって舞台に立つという責任を持った児童生徒は、自主的に稽古をし本番に臨みます。自主稽古中に喧嘩をしまい、そのことで貴重な練習時間を無駄にしたと先生に謝りにくる児童生徒もいて、先生がそのめざましい成長ぶりに驚いたそうです。

この公演は、児童生徒と出演者が共演し、観客の児童生徒も参加して一つの舞台を創り上げていく唯一無二のプログラムです。

ワークショップの参加者

その1 「茸」のお稽古のみの場合 (12名参加)

時間...90分

必修 狂言「茸」のキノコ役・鬼茸役の稽古 場所...体育館

キノコ役...12名



選出方法

弊社のおすすめ

①低学年から高学年の中から選出。

効果 (先生の感想より)

- 異学年の児童たちが一つの目標に向かって共に頑張る楽しさや達成感を実感することができた
- 自主的に教え合ったり低学年の面倒を見たりする態度が育った

②同じ学年やクラスの中から選出。

授業の関係もあると思いますので、選出につきましては臨機応変にいたしますのでご相談ください。



鬼茸役...先生1名

大きな声を出して、子どもたちを引っ張っていく  
鬼茸役の先生は子どもたちにとって心強く  
励みとなる存在です

効果

(先生の感想より)  
子どもたちとの距離が縮まり、  
の交流が深まった

※ワークショップの詳細はあとのページに掲載

ワークショップ  
実施形態及び内容

その2 クラス単位・学年単位での参加をご希望の場合

茸の稽古と謡いのお稽古2組にわかれてお稽古します

時間...90分

必修 狂言「茸」のキノコ役・鬼茸役の稽古 場所...体育館

参加者...キノコ役12名 鬼茸役...先生1名

時間...45分

選択制 狂言の謡「兎(うさぎ)」をうたおう! 場所...音楽室等

参加者...茸役以外のクラス単位、学年単位での参加

場 所...音楽室など

狂言の簡単な所作などを体験後、  
狂言の謡「兎(うさぎ)」を大きな声でうたう練習をします。  
本公演では、みなさんの謡いにあわせて、狂言師が小舞を舞います。

※小規模校やご希望の場合は、児童生徒数名が小舞も覚えていただき、本公演で発表することも可能です。  
本公演での発表の様子(写真右)



2組に分かれてお稽古します



ワークショップ  
実施形態及び内容

その3

### 全校児童・生徒の参加をご希望の場合

より多くの児童生徒さんに体験してもらうため、午前中に全校でワークショップを行い、午後に代表児童が茸の稽古をすることも可能です

時間…30分～45分

選択制

みんなで楽しむ狂言体験

場所…体育館

参加者…全校児童・生徒(キノコ役の児童も含む)

#### 1 はじまりのあいさつ

まずは「おねがいします」と狂言師と児童・生徒さんがお互いあいさつをしてはじめます。

#### 2 狂言の解説

狂言の歴史、成り立ちから、狂言のかまえ、歩き方、すり足、発声など、

狂言にふれたことのない人でもわかりやすく解説します。

『柿山伏』などのポピュラーな演目を題材として、「道ゆき」や「名乗り」など

狂言師が実際に舞台上で演じながらお話しします。

#### 3 着付け体験 装束を着てみよう!

先生に狂言の装束の長袴を着付けします。

みんなで  
体験!

### 狂言の謡「兎(うさぎ)」をうたおう!

狂言の簡単な所作などを体験後、狂言の謡「兎(うさぎ)」を

大きな声でうたう練習をします。

本公演では、みなさんの謡いにあわせて、狂言師が小舞を舞います。

### お昼休憩

時間…90分

必修

狂言「茸」のキノコ役・鬼茸役の稽古

場所…体育館

参加者…キノコ役12名 鬼茸役…先生1名

#### ワークショップ実施のパターン

##### その1 茸のお稽古のみ

茸のお稽古

キノコ役12名+先生  
場所 体育館

90分

##### その2 クラス単位参加

茸のお稽古

キノコ役12名+先生  
場所 体育館

各  
90分

2組に分かれてお稽古

謡「兎」のお稽古

クラス単位参加  
場所 音楽室等

各  
45分

##### その3 全校児童・生徒参加

狂言解説と謡

全校児童・生徒参加  
場所 体育館

午前中  
45分

茸のお稽古

キノコ役12名+先生  
場所 体育館

午後  
90分



狂言「茸」のキノコ役・鬼茸役の稽古

まずは足袋を履いてお稽古します。  
最近では足袋を履く機会がほとんどないので、履くことにも一苦労します。  
これも経験のひとつです。



ワークショップ  
実施形態及び内容



礼にはじまり、礼に終わる。まずはあいさつして稽古にのぞみます。



茸(くさびら)の動き方の練習。舞台一杯にキノコ達が動き回り狂言師のセリフにあわせてピタッと動きをとめます。

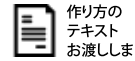


鬼茸役の先生の練習  
「とっつかもお～」というセリフを大きな声を出して言う練習をします

体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。  
しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので  
体操着など動きやすい服装(スカート不可)で行います。  
鬼茸(おにたけ)役の先生も一緒に練習します。



### ワークショップ終了後、各自本番までの宿題



作り方の  
テキスト  
お渡ししま

本番で使用するキノコ役の面を創作!

ワークショップ終了後、本公演までに舞台出演時に身につける面をオリジナルで作成します。児童生徒が想像を膨らませて作成した、世界に一つしかない狂言面を作り、狂言の舞台に挑みます。

材料の一部はこちらでご用意いたします。



いままで児童生徒がつくった作品の一部です

本番の公演で面と傘をつけて登場します

### ワークショップ 実施形態及び内 容



狂言の「面」について説明します

### 面をつくる効果

いままで上演してきた学校の反応をみてわかったこと

- 観客の児童生徒がそれぞれの「面」のおもしろさを楽しみながら見ている。
- 色とりどりの「面」は、庭に生えてきた怪しいキノコを表現するのに効果的。
- 児童生徒の想像力はとてもおもしろく、それぞれオリジナリティあふれる作品が生まれる。
- カーテンコールで面をはずして出てくると、あのおもしろい面を作ったのはあの子だったのか!と驚きがある。